

平成29年度津山洋学資料館冬季企画展

日本の化学の夜明けと

津山の洋学者

日本で最初の化学書

宇田川榕菴 『セイミ舎密開宗』、

刊行開始から一八〇周年

平成29年 平成30年
会期：11月18日(土)～2月25日(日)
開館時間：9時～17時(入館は16時30分まで)
休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、
年未年始(12/29～1/3)
会場：津山洋学資料館 企画展示室
〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

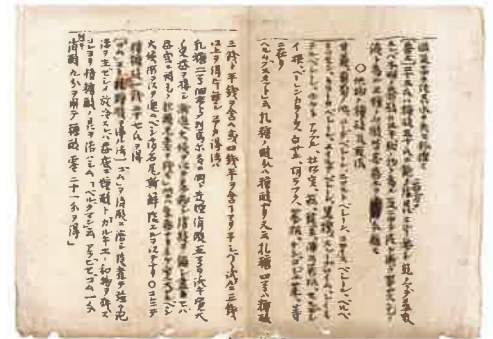
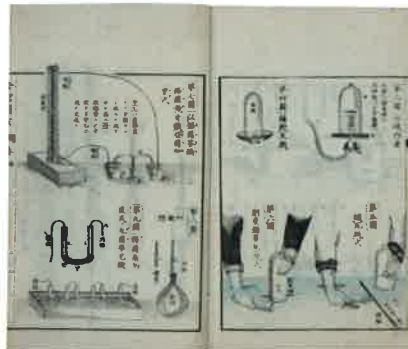
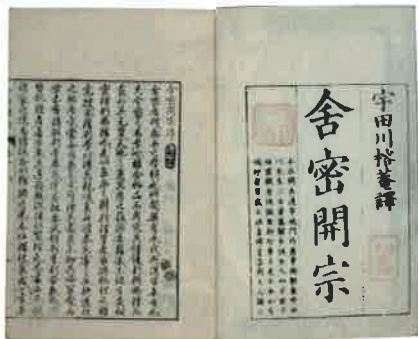
日本の化学の夜明けと津山の洋学者



宇田川榕菴 (1798~1846)
武田科学振興財団杏雨書屋所蔵

津山藩医の宇田川榕菴が、日本で最初の化学書『舎密開宗』の刊行を開始してから、180周年を迎えました。榕菴は、「舎密は理の堂奥」(化学は理学の最も奥深い所にある)と言って、晩年を化学の研究に捧げました。榕菴が亡くなったことで『舎密開宗』は未完となってしまいましたが、この書から始まった日本の化学研究は、多くの人に引き継がれ、その後飛躍的な発展を遂げてきました。

本展では、榕菴をはじめとして、宇田川準一や久原躬弦ら、江戸時代後期から明治時代の初めにかけて、日本の化学の黎明期に業績を残した津山の洋学者たちについて紹介します。



日本で最初の化学書 宇田川榕菴訳『舎密開宗』 1837(天保8)年刊行開始

宇田川榕菴著「糖酸についての訳稿」
江戸時代後期



久原躬弦
(1855~1919)
東京大学化学科を第1回生として卒業し、アメリカへ留学。日本化学会の初代会長となり、京都帝国大学の総長等を歴任しました。日本の理論有機化学の草分けです。



東京大学化学科卒業証書
1877(明治10)年



東大卒業生の記念写真
1877(明治10)年



宇田川準一訳『化学階梯』1881(明治14)年刊

宇田川準一
(1848~1913)
榕菴の養子となった興斎の長男。大阪開成所(舎密局の後身)で科学や物理を修めて東京師範学校教師等を歴任。『物理全志』『化学階梯』等の教科書を著しました。



- 開館時間 / 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日 / 月曜日(祝日の場合はその翌日), 祝日の翌日, 年末年始
(会期中の休館日: 11/20・24・27, 12/4・11・18・25・26・29~31,
平成30年1/1~3・9・10・15・22・29, 2/5・13・14・19)
- 入館料 / 一般 300円, 高校・大学生 200円
(常設展示と共通・30名以上の団体は2割引)

津山洋学資料館 TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5
TEL:0868-23-3324 FAX:0868-23-9864
URL: <http://www.tsuyama-yougaku.jp>
e-mail: yougaku@city.tsuyama.lg.jp



- 交通のご案内
- ・ JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- ・ 中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分